

1. 木質バイオマス関連情報

■山梨県甲府市、バイオマス燃料として活用するために栽培を始めた新しい植物「ヤマトダマ」を収穫 (12 月 10 日)。ヤマトダマは 2024 年 5 月から市内の休耕地を活用して栽培。半年で高さ 6m 程に成長するため効率よく収穫できるほか、1 本の木に 300~500 粒ほど実る種から搾った油は化石燃料の代替品として活用することが期待されている。当日は市の職員などが 4m 程に育った「ヤマトダマ」15 本をのこぎりで伐採し、種を取る作業を実施。幹や葉は市の環境センターで乾燥させたあとバイオマス燃料として活用し、種は「ヤマトダマ」を開発した企業に持ち込まれ、活用方法の研究を進める【NHK NEWS WEB:2024/12/10】

<https://www3.nhk.or.jp/lnews/kofu/20241210/1040025232.html>

■長野県南箕輪村、12 月 11 日の村議会全員協議会で、大芝高原の日帰り温泉施設「大芝の湯」近くに木質バイオマス発電施設を整備する構想を明らかに。松枯れ被害にあった同高原のアカマツや森林整備で伐採した木材、建築廃材などを活用し、熱と電気を大芝の湯などで活用する計画。事業費約 8 億円(概算)を投じてエネルギーが地域内で循環する仕組みの構築を目指す。2025 年度に計画を策定して国に提出し、交付金事業として採択されれば 2026 年度から 3 か年で整備したい考え【長野日報、信濃毎日新聞：2024/12/12】

<https://www.nagano-np.co.jp/news/detail.php?id=2774>

<https://www.shinmai.co.jp/news/article/CNTS2024121200197>

■バイオマス発電を巡り、3メガ銀行が融資の条件を厳格化。(株)みずほフィナンシャルグループ (FG) (東京)、(株)三井住友フィナンシャルグループ (FG) (東京)、(株)三菱 UFJ フィナンシャル・グループ (東京) は、2024 年度から森林伐採の防止や燃料輸送時の CO₂ の削減を条件に追加。発電会社には燃料調達ルートの再考や環境負荷について説明責任が求められる。石炭火力発電で進む混焼発電には逆風に【日本経済新聞：2024/12/13】

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUC0484H0U4A001C200000/>

■花巻バイオチップ (株) (岩手)、(一財) 地域総合整備財団 (ふるさと財団) (東京) が主催する 2024 年度のふるさと企業大賞 (総務大臣賞) 受賞。木質チップは通常は廃棄される枝葉や間伐材を使用。グループ会社の (株) タケエイ林業 (本社・東京) が管理する花巻市大迫町、遠野市などの社有林 (8 月現在計 620ha) をはじめ、松くい虫やナラ枯れの被害木、廃棄物の生木なども活用し、約 6 万 t / 年を生産。100% 県産の木質チップを生産し、グループ会社と一体となり、森林保全から余熱利用の地域振興まで一貫する地産地消の活動が評価された【岩手日報：2024/12/13】

<https://www.iwate-np.co.jp/article/2024/12/13/175642>

■イーレックス (株) (東京)、ベトナム・ハウジャン省におけるハウジャンバイオマス発電所運転開始スケジュールの変更について発表。同発電所の燃料は約 13 万 t / 年のもみ殻。発電出力は 20MW (年間発電量は一般家庭約 93,000 世帯分)。イーレックスとしては海外第 1 号、ベトナムにおいては商用としても第 1 号となるバイオマス発電所の建設を 2022 年 12 月から進めてきており、当初計画では 2024 年 12 月に運開する計画だった。しかしベトナム国外で製作している燃料供給設備の一部資機材の納入遅れにより、試運転等の運転開始が 2025 年 1 月に、商用運転開始は 2025 年 2 月になるとしている【イーレックス (株)：2024/12/16】

<https://ssl4.eir-parts.net/doc/9517/tdnet/2540604/00.pdf>

■(株) タケエイ (東京)、千葉県東金市における木質バイオマス発電事業計画を見直しへ。同社は、2019 年の大型台風によって 300 万 m³ 発生したとも言われる風倒木などの有効活用や、地元が誇る「山武杉」及びその溝腐れ病被害木などを燃料とすることを目指し、2021 年に事業について具体的な検討を開始。東金市および地元森林事業者の協力を得ながら計画を進めて

きた。しかし森林材の安定的な確保にあたって、所有者の追跡調査や実作業などに想定以上の時間を要することが判明。加えて 2021 年に発生したウッドショックを背景にグループとしてもより一層安定した燃料供給体制の構築が必要となった。これらのことからまずは千葉県内において林業の再生・活性化による森林再生事業に取り組み、安定した燃料供給体制の確立を優先させると共に、千葉県内における木質バイオマス発電事業について規模並びに用地の再検討を行うことに。上記の発表と同日、親会社の TRE ホールディングス（株）（東京）はタケエイが千葉県市原市の山林 321,471 m² を取得したことを公表。タケエイは、2024 年 1 月からは佐倉市で森林整備業務を担当し、同年 5 月には東金市の山林で 1,100 本の植樹を行うなど、千葉県森林組合と連携して県内の森林再生事業の取り組みを進めている【TRE ホールディングス（株）：2024/12/16】

<https://ssl4.eir-parts.net/doc/9247/tdnet/2540530/00.pdf>

<https://ssl4.eir-parts.net/doc/9247/tdnet/2540531/00.pdf>

■経産省、12 月 17 日に総合資源エネルギー調査会・基本政策分科会を開催。第 7 次エネルギー基本計画の原案を公表。焦点となっていた 2040 年度における電源構成の見通し（目標）は再生可能エネルギー 4～5 割、火力 3～4 割、原子力 2 割程度に。現在の第 6 次エネルギー基本計画の 2030 年度・電源構成（見通し）で火力 56%程度、再エネ 36～38%、原子力 20～22%としたことと比べると、初めて再エネが火力を上回り、最大の電源に。再エネの内訳は太陽光 22～29%、水力 8～10%、風力 4～8%、バイオマス 5～6%、地熱 1～2%。再エネ積み増しの多くを太陽光の増加で賄う見通し。第 7 次エネルギー基本計画（案）は、12 月 27 日～1 月 26 日まで専用サイトにてパブリックコメントが募集され、2025 年 1 月末以降、全国各地において同計画案ならびに「GX2040 ビジョン（案）」に関する説明会・意見交換会が開催される予定【メガ・ソーラービジネス：2024/12/18、資源エネ庁：2024/12 月】

<https://project.nikkeibp.co.jp/ms/atcl/19/news/00001/04679/?ST=msb>

https://www.enecho.meti.go.jp/committee/council/basic_policy_subcommittee/opinion/2024_public.html

<https://www.enecho.meti.go.jp/information/gx/03.html>

■広島県、「令和 6 年度広島県カーボンリサイクル関連技術研究開発支援補助金」において、（株）ウルバ（高知）の「爆発的

に成長する海藻により二酸化炭素を固定し、バイオマス燃料を生産する」を採択。同社はあらゆる食用海藻を育てることができる陸上養殖技術を基盤に、海藻の中でも特に成長が早い海藻（最適条件下で 1 日 4 倍質量増加）を育てることで CO₂ を効率よく固定し、食用海藻の生産と海藻を原材料とした素材の研究開発を行っている。同社が、西日本最大級の産業廃棄物処理施設を有し、処理プロセスで発生する CO₂ の排出量削減を喫緊の課題とするツネイシカムテックス（株）（広島）と共同研究を開始。海藻を介して CO₂ を固定するカーボンリサイクルの基盤を確立し、「炭素循環社会の未来」を創るための新技術の開発に挑戦する【PR TIMES：2024/12/19、広島県】

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000001.000152833.html>

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/77/hccp-archive.html>

■ジカンテクノ（株）（大阪）とスズキ（株）（静岡）、2024 年 11 月にサーキュラーエコノミーシステムの実現に向けた共同開発契約を締結。両社は、ジカンテクノが提携する農業プラントにおいて、もみ殻を焼却することで得られるバイオマス由来エネルギーの利用による GHG 削減効果などを検証。合わせて、もみ殻の焼却時に発生するシリカおよびカーボンの活用方法も検討する【スズキ（株）：2024/12/20】

<https://www.suzuki.co.jp/release/d/2024/1220/>

■東日本旅客鉄道（株）（東京、以下「JR 東日本」）とイーレックス（株）（東京）が、資本業務提携契約を締結。JR 東日本がイーレックスの普通株式を 3,646,500 株（イーレックスの発行済株式総数の 4.9%）引き受け、保有する。引受金額は総額 20 億 7,850 万 5,000 円。払込期日は 2025 年 1 月 14 日の予定。JR 東日本グループの再生可能エネルギー発電所や鉄道事業用の電力需要と、イーレックスグループが保有する再生可能エネルギー事業の運営ノウハウ（需給管理機能）等を組み合わせ、両社の持続的成長と相互の企業価値向上を進めていくとしている【イーレックス（株）：2024/12/20】

<http://www.erec.co.jp/news/information/2873/>

■韓国エネルギー技術研究院(KIER)、11 月 21 日、クリーンエア研究所の研究チームが、カシューナッツの加工時に廃棄される殻から高品質のバイオ燃料を製造する技術を開発したと発表。韓国では単一のバイオマスだけで必要な原料を確保するこ

とが難しく、さまざまなバイオマスを収集するコストがかかるため、化石燃料に比べ経済性が劣ることが課題になっている。そこで研究チームは海外で容易に入手でき、高カロリーの油成分を40%含むカシューナッツの殻に着目。従来の機械的圧搾法の限界に対処するため、研究チームが中温熱分解法によって効率的に高品質のバイオ重油を製造する技術を開発した。これにより、生産時間は従来の1/3、生産率は40%と2倍以上に向上。完全自動化も可能で運転コストも半減できる。硫黄含有量は90ppmで、国際海事機関(IMO)の定める硫黄酸化物排出基準を満たし、船舶燃料としての可能性も。さらに副産物のバイオ炭は炭素含有量が高く、発電所や製鉄所で石炭に代わる燃料として使用できる。研究チームは東南アジアでの商業化の実現性が高いと述べており、2025年にはパイロットスケールの設備研究を開始し、本格的な商業化に進む考え【Science Portal Korea：2024/12月】

https://spap.jst.go.jp/korea/news/241204/topic_nk_01.html

■バイオマスパワーテクノロジーズ(株)(三重)、三重県松阪市で開発していた「パワーエイド三重シン・バイオマス(R)松阪発電所」が12月16日より試運転調整を開始したと発表。同発電所は完全NON-FIT型。従来型の木質系燃料に加えて、長らく廃棄処分されてきた製造業由来の生産副産物(キノコ等の廃菌床や清涼飲料水の茶滓やコーヒー粕)、廃プラや廃ゴム・スポンジ製品などの非化石燃料と最適にブレンドしてハイブリッド使用する。発電出力は1.99MW、年間発電量は約4,000世帯分に相当する1,647万kWhを見込む。発電設備は、(株)タクマ(兵庫)製の木質燃料焚きニューマチックスプレッド式逆走トラベリングストーカーボイラーおよび抽気復水タービン発電設備を採用。同県多気町にあるホクト(株)(本社・東京)の三重きこセンターから排出される使用済み培地(廃菌床)や中部圏の近隣から排出されるリサイクルチップ・RPFを約27,000t/年燃料として使用。ホクトの三重きこセンターにオフサイト型PPA(電力購入契約)による100%脱炭素電源を長期にわたり循環提供する。総事業費は約26億円。うち6億円をGK-TKスキームによる匿名組合出資で調達。20億円は(株)みずほ銀行(東京)をアレンジャーとする9行でのシンジケートローンで融資を受けた。2025年1月24日には火入れ式を行い、3月15日の完成検査を経て3月16日には竣工・本運転開始の予定【紀伊民放：2024/12/24、メガソーラービジネス：2024/12/25】

<https://www.agara.co.jp/article/446244>

<https://project.nikkeibp.co.jp/ms/atcl/19/news/00001/04698/>

■岡山県真庭市の真庭高校が創設した「真庭バイオマスマイスター」の第2期生に、同校経営ビジネス科の2年生8人が認定。同校と真庭観光局が連携し、同科の生徒を対象に「バイオマスツアーガイド養成講座」を開講。真庭市の特徴となっているバイオマスに関連する知識(林業、発電、発酵など)を昨年12月から学び、試験(筆記、ガイドの実践)を経て8人が合格した。認定者は第1期生を合わせて15人に。2年生は来年度、1年生で実施するバイオマスツアーのガイドなどを行う【津山朝日新聞：2024/12/25】

<https://tsuyamaasahi.co.jp/8%e4%ba%ba%e3%81%8c%e3%80%8c%e7%9c%9f%e5%ba%ad%e3%83%90%e3%82%a4%e3%82%aa%e3%83%9e%e3%82%b9%e3%83%9e%e3%82%a4%e3%82%b9%e3%82%bf%e3%83%bc%e3%80%8d%e3%81%ab%e3%80%80%e8%aa%8d%e5%a%e8%a8%bc%e3%82%92/>

■新電力のゼロワットパワー(株)(千葉)がディーゼル火力発電事業を手がける双日佐和田火力(株)(新潟)の株式を取得し、連結子会社化したと発表。これにより、商号を「佐和田発電所(株)」に変更。佐和田発電所の発電出力は1号機が5,600kW、2号機が8,400kW。佐渡島内供給力(MW)の約15%を担っている。現在はLSA重油を燃料としているが、将来的にバイオマス燃料に置き換えることを視野に、佐和田発電所が排出するCO₂の削減を目指すとしている【新潟日報：2024/12/26、ゼロワットパワー(株)：2024/12/02】

<https://www.niigata-nippo.co.jp/articles/-/532074>

https://zerowattpower.co.jp/assets/uploads/pdf/PressRelease_20241202v1.pdf

■エア・ウォーター(株)(大阪)、カーボンニュートラル化の実現に向け、製造時におけるCO₂排出量を実質ゼロにした「グリーンメニュー」を製品ラインアップとして展開。第一弾として、2025年度上期中を目途に、グループ内のバイオマス発電施設から創出される環境価値を活用し、「グリーン産業ガス(酸素・窒素)」の製造・販売を行う。同社グループが保有する日本海水赤穂第1バイオマス発電所(兵庫、出力：約1.65万kW)、日本海水赤穂第2バイオマス発電所(同、出力：約3万kW)。

エア・ウォーター小名浜バイオマス電力（福島、出力：約 7.5 万 kW）、日本海水 TTS 苅田パワー木質バイオマス発電所（福岡、出力：約 5 万 kW）から創出される環境価値を、産業ガス製造時に発生する電力由来の CO₂にマスバランス方式でオフセットし、「グリーン産業ガス」とする。マスバランス方式とは、バイオマス原料やリサイクル原料などの使用によって削減した製造拠点の CO₂排出削減効果を、特定の製品に割り当てることのできる仕組み。顧客は従来の産業ガス製品の代替としてグリーン産業ガスを使用することにより、自社の「スコープ 3（サプライチェーンにおける事業活動に関する間接的な排出）」を削減できるようになる【PR TIMES：2025/01/09】

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000129.000114852.html>

■安藤ハザマ（東京）、バイオマス発電所の排ガスを利用したプレキャスト床版ブロックの製造試験を開始。同社は建設会社や生コン工場、大学など 15 の企業・団体が結集した CP コンクリートコンソーシアム（以下、CPCG）の幹事会社として、NEDO のグリーンイノベーション基金事業「CO₂を用いたコンクリート等製造技術開発」プロジェクトの採択を受け、2022 年から CARBON POOL コンクリート（以下、CP コンクリート）の開発を進めている。同プロジェクトの一環として、2024 年 8 月から滋賀県栗東市にある CP センター栗東において、同県米原市にある「いぶきグリーンエネルギーバイオマス発電所」（出力：約 3,550kW）の排ガスを資源として再利用し、排ガスに含まれる CO₂を吸収・固定させたプレキャストコンクリート床版ブロックの製造試験を開始。最大約 60kg/t の CO₂を固定させた「炭酸化再生骨材」と最大約 335kg/t の CO₂を固定した「炭酸化スラッジ粉末」を使って床版ブロックを製造し、養生時にも最大

で約 70kg/m³の CO₂固定に成功。試験の結果、養生後の床版ブロックには、最大約 125kg/m³の CO₂が固定できたことを確認。現状では各製造工程の CO₂固定量は一定ではないため、今後は安定的に最大量の CO₂固定が可能となるよう検討していく予定【日本経済新聞：2025/01/10】

https://www.nikkei.com/article/DGXZRSP685041_Q5A110C200000/

■経産省・資源エネルギー庁、第 101 回調達価格等算定委員会を 1 月 17 日に開催。2025 年度も入札対象とされている一般木質等（10,000kW 以上）の大規模バイオマス及びバイオマス液体燃料（全規模）について、バイオマス発電に既に十分な FIT 認定量があることや、2022 年度以降入札件数 0 件が続いている状況下で、中長期的な自立化に向けて設定された価格水準や燃料の安定調達の実現性、バイオマス発電全体における燃料の需給が逼迫していることを踏まえ、2026 年度以降、FIT/FIP 制度の支援の対象外とする案が出された。また国民負担の下で導入された再エネ電源であるバイオマス発電が、支援期間終了後に火力発電へ転換することや事業廃止に至ることを抑止する必要があるとして、FIT/FIP 期間終了後も定期報告・変更届出を通じて継続的にバイオマス比率の把握を行うとともに、バイオマス比率を一定以上減少させた場合には指導などの対象とし、その旨を公表するとする案を提示。しかし指導などの措置は実効性に限界があるため、FIT/FIP 期間が終了したバイオマス発電/発電事業者に適用があり得る他の諸制度と連携し、規制/支援の両面を検討することにも言及した【電気新聞：2025/01/20、経産省：2025/01/17】

<https://www.denkishimbun.com/archives/380808>

<https://www.meti.go.jp/shingikai/santeii/101.html>

2. ペレット関連情報

■（株）内子竜王バイオマスエネルギー（愛媛）と同社を設立した（株）竹中工務店（大阪）、三洋貿易（株）（東京）、（有）内藤鋼業（愛媛）、（株）サイプレス・スナダヤ（愛媛）、大日本ダイヤコンサルタント（株）（東京）が、（財）コージェネレーション・エネルギー高度利用センター（東京）主催の「コージェネ大賞 2024」民生用部門において特別賞を受賞。同社は内子町と「内子町龍王地区の木質バイオマス熱電併給に関する基本協定書」を締結。町からの各種支援、地元企業 20 社からの

優先出資などを得て地域が一体となって事業実現に関与する仕組みを導入し、愛媛県内子町に「内子龍王バイオマス発電所（出力：電気 330kW、熱 520kW）」を建設。発電所の燃料には内子町森林組合に出材された原木約 3,600t/年の間伐未利用材から内藤鋼業小田ペレット工場で製造されたペレットを使用。ブルクハルト社（独）製小型高効率木質バイオマス熱電併給装置を採用し、発電した電力は FIT 制度を利用して四国電力送配電（株）（香川）へ全量売電している。発電の際に発生する熱は

宿泊施設オーベルジュ内子とフィットネスクラブ RYUOW へ供給。これらの取り組みを「地域の木質資源を活用したコンパクトで持続可能なエネルギーと経済の循環モデル事業」として応募申請し、受賞するに至った。なお内子龍王バイオマス発電所は、(一社)日本ウッドデザイン協会の「ウッドデザイン賞 2023」において奨励賞(審査委員長賞)も受賞している【PR TIMES: 2024/12/12】
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000042.000050196.html>

■イーレックス(株)(東京)、ベトナムのトゥエンクアン省における木質ペレット工場「イーレックス・サクラ・バイオマス・トゥエンクアン工場」の運転開始予定を変更したと発表。予定通り生産設備の試運転調整を行い、2024年12月に運転開始と開示していたが、試運転調整完了後2025年2月頃までにはペレットの本格生産を開始できる見込みとしている。同プロジェクトではベトナムで未利用となっている木質残渣等を収集してペレットに加工し、日本を中心とするベトナム国外で販売することを主目的としている。工場の生産能力は15万t/年、総投資額は20,400,000USD【イーレックス(株):2024/12/13】
<https://ssl4.eir-parts.net/doc/9517/tdnet/2539919/00.pdf>

■東北電力(株)(宮城)、新潟県聖籠町に建設した「新潟東港バイオマス発電所」が商業運転を開始したと発表。事業主体はエクイス・デベロップメント・ピーティーイー・リミテッド(シンガポール、以下「エクイス」)が80%、東北電が20%出資する新潟東港バイオマス発電合同会社(新潟)。東北電は、エクイスより設計・建設時におけるオーナーズエンジニアリング業務に加え、商業運転開始後の運転・保守管理業務も受託している。主に東南アジアから輸入する木質ペレットやPKSを燃料として使用し、出力規模は5万kW、年間発電量は約3億6,000万kWhで、約11万世帯分の年間使用電力量に相当。全量をFITを通じ、東北電力ネットワーク(株)(宮城)に売電する。東洋エンジニアリング(株)(千葉)が発電設備一式の設計、資金機材調達、建設工事、試運転までのEPC(設計・調達・施工)サービス業務を一括請負で受注。ボイラはオーストリア・アンドリッツ製、タービンおよび発電機は独シーメンス製を採用。CO₂削減量は約16万t/年。東北電グループは2030年代早期までに東北・新潟エリアを中心に200万kW分の再生可能エネルギー発電施設を開発する目標を掲げており、2024年11月時点で

開発・出資する電源は約80万kWを達成している【日本経済新聞、東北電力(株):2024/12/23、電気新聞:2024/12/24、メガソーラービジネス:2024/12/28】

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOCC2359T0T21C24A2000000/>

[https://www.tohoku-](https://www.tohoku-epco.co.jp/news/normal/1245999_2558.html)

[epco.co.jp/news/normal/1245999_2558.html](https://www.tohoku-epco.co.jp/news/normal/1245999_2558.html)

<https://www.denkishimbun.com/archives/379795>

<https://project.nikkeibp.co.jp/ms/atcl/19/news/00001/04709/>

■遠野興産(株)(福島)、福島民報社主催の「第10回ふくしま経済・産業・ものづくり賞(ふくしま産業賞)」で銀賞を受賞。同社は2006年に家庭用のペレット製造工場を建設。通常は製材品の端材などを材料にするケースが多いが、福島県産スギの丸太を原材料に使用。同社の「いわき産ペレット温丸」は(一社)日本木質ペレット協会(東京)から燃料用優良木質ペレットAとして認証を受けており、県内企業でボイラ発電に活用されている他、役場や学校でもペレットストーブの燃料として導入されている。2019年には国内初の石炭混焼用の木質ペレットの大型製造工場を操業。国際規格の最高品質認証を取得しているペレットと同等の製品が、電力会社以外では国内最大級の規模を誇る日本製紙石巻雲雀野発電所で利用されている【福島民報:2024/12/25、遠野興産(株):2024/12/27】

<https://www.minpo.jp/news/moredetail/20241225121533>

<https://www.toono-group.com/information/news20241225.html>

■(株)レノバ(東京)、徳島津田バイオマス発電所(徳島)が安定稼働するための対策工事が完了し、12月22日に通常運転を再開したと発表。同発電所は2023年12月に稼働したものの、点検・補修などで停止を繰り返し、対策工事を9月下旬から続けていた。木質ペレット、PKSを燃料とし、設備容量は74.8MW、想定年間発電量約50,000万kWh(一般家庭約15万世帯の年間使用電力量に相当)。レノバ、大阪ガス(株)(大阪)、(株)フォレストバンク(徳島)、(株)ダイリFPC(徳島)、徳島電機産業(株)(徳島)の5社が出資する徳島津田バイオマス発電所合同会社が運営。発電所の停止が響き、レノバの2024年4~9月期の連結最終損益(国際会計基準)は1億2,800万円の赤字(前年同期は28億円の黒字)と、2017年の上場以来初の最終赤字に。今期(2025年3月期)の業績への影響は、

2024年5月8日に公表した連結業績予想に織り込み済みであり、影響は生じない、としている【日本経済新聞、(株)レノバ：2024/12/27】

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUC272KN0X21C24A2000000/>

https://www.renovainc.com/news/business/pdf/20241227_01PRESS.pdf

■イーレックス（株）（東京）、経営効率を高めるためとして、連結子会社の佐伯バイオマスセンター（株）（東京、以下「SBC」）との吸収合併を決定。イーレックスを存続会社とし、SBCを消滅会社とする。イーレックスグループのイーレックスニューエナジー佐伯（株）（東京）が大分県佐伯市にて運営する佐伯発電所（発電出力：50MW）は木質ペレットとインドネシア、マレーシア産のPKSを燃料にしている。その貨物船が着工する女島埠頭にある敷地面積2万3,000㎡、PKSを約4万3,000t保管できる広大な燃料備蓄倉庫がSBCの「佐伯バイオマスセンター」で、SBCは佐伯発電所向けのバイオマス燃料の寄託業務をイーレックスから受託していた。合併契約締結日は2024年12月27日、合併効力発生日は2025年4月1日の予定【日本M&Aセンター、日本経済新聞：2024/12/27、(株)イーレックス】

https://www.nihon-ma.co.jp/news/20241227_9517-6/
<https://www.nikkei.com/nkd/disclosure/tdnr/20241227545494/>

<https://www.erec.co.jp/business/power-generation/plant/saiki/>

■丸駒温泉（株）（北海道）、110年目を迎える2024年12月30日にロビースペースの改装を終えてリニューアルオープン。同温泉は国立公園に指定された支笏湖の湖畔に立つ、創業大正4年の温泉旅館。先人から引き継いだこの景色を守るためのサティスナブルなコンテンツの一例として、新設したロビーラウンジにペレットストーブを設置。国立公園の宿泊事業者として、環境と快適の両立にこだわったとしている【PR TIMES：2024/12/30】

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000018.000089077.html>

■長野県飯島町のキャンプ場でテントや乗用車を焼く火事。1月1日午前10時半頃、飯島町日曾利（ひっそり）のキャンプ

場で「テントから火が出ている」などと関係者が消防に通報。火はおよそ15分後に消止められたがテント1張が全焼し、近くにあった乗用車の一部が焼けた。焼け跡からはペレットストーブが見つかっていて、警察がテントの中から出火したとみて詳しい原因を調べている。テントは宿泊していた複数人のグループが使用していたが、出火当時外出していてけがなどはなかった【SBC信越放送：2025/01/02】

<https://newsdig.tbs.co.jp/articles/sbc/1647117?display=1>

■自転車競技のスペインのプロチーム、ブルゴスBHがチーム名を「ブルゴス・ブルペレットBH」に変更。新スポンサーとなったブルペレットはブルゴス市にある木質ペレット製造会社。2008年にスペイン北部にあるブルゴスをタイトルスポンサーに迎え、2012年にはバスクのバイクメーカーであるBHが加わり、今回新たにブルペレットがセカンドタイトルスポンサーとして加わった。契約期間は2年間（2026年まで）と見られている【シクロワイヤード：2025/01/04】

<https://www.cyclowired.jp/news/node/389320>

■山口県下関市にある「長府バイオマス発電所」、2024年12月30日に営業運転開始。同発電所は、(株)東京エネシス（東京）が20%、石油資源開発（株）（東京）が39.9%、(株)MOT総合研究所（山口）が15.1%、(株)長府製作所（山口）が15%、ならびに川崎近海汽船（株）（東京）が10%出資する長府バイオパワー合同会社（山口、以下「CBP」）が事業主体。輸入木質ペレット100%を発電燃料とする出力規模74,950kWのバイオマス専焼発電所で、年間売電量見込みは約5.2億kWh。FITを利用し、中国電力ネットワーク（株）（広島）に売電している。発電所の運営はCBPが事業主体として推進。出資5社は、発電所の運用・保守、燃料の調達・輸送などの業務を各社の強みに応じてCBPから受託し実施するほか、CBPに対する行政や周辺地域との関係構築・維持などで協力・支援を行う。東京エネシスは長期にわたる運転・保守業務（O&M業務）等を担当する【(株)東京エネシス：2025/01/06】

<https://www.qtes.co.jp/ir/document/news/1267/>

■(株)JERA（東京）、2024年1月に起きた爆発の影響で稼働を停止していた愛知県武豊町の武豊火力発電所について、電力の安定供給確保のため爆発の原因となった木質バイオマス（木質ペレット）を使わず、石炭のみを燃料として使う形で1月7

日に稼働を再開させたと発表。木質バイオマスをベルトコンベアで運ぶ際に、多くの粉じんが発生。たまった粉じんがベルトコンベアの摩擦熱で発火したことで、爆発が起きた。JERA は事故調査委員会の結果を踏まえて、木質バイオマスを空気で運ぶ設備を新設することで、摩擦による発熱や粉じんがたまるリスクを減らすなどの再発防止策を示し、2026 年度末ごろの復旧を目指している。復旧までの間、夏季や冬季の電力需要が高い時期に安定供給するための暫定措置として、石炭のみでの稼働を再開【goo ニュース：2025/01/08】

<https://news.goo.ne.jp/article/tvaichi/region/tvaichi-20250108-1642-06348.html>

■（株）奥村組（大阪）、1 月 15 日発表の 2024 年 4～9 月期の連結決算は、最終損益が 3 億 2,400 万円の赤字に。前年同期は 57 億円の黒字だった。連結子会社の石狩バイオエナジー合同会社（北海道）が運営する「石狩新港バイオマス発電所」（北海道石狩市、燃料は木質ペレット・PKS、発電出力 5 万 1,500kW）

で 2024 年 7 月 19 日に起きた事故で運転を止めたため、生じた営業外費用の計上などが響いた。最終赤字の主因は燃料調達で適用していたヘッジ会計を中止したことに伴う為替予約評価損の計上だった。今後の影響は軽微などとして 2024 年 11 月に開示した通期の予想は見直さなかったと説明。石狩バイオエナジーは 2024 年 12 月 19 日に開催された「第 22 回産業構造審議会保安・消費生活用製品安全分科会電力安全小委員会電気設備自然災害等対策ワーキンググループ」に出席。発電所の爆発・火災事故の要因の分析や詳細に検討してきた再発防止対策について説明を行った【日本経済新聞：2025/01/15、日経 XTECH；2024/07/19、経産省：2024/12/19】

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUF158H40V10C25A1000000/>

<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/news/24/01213/>

https://www.meti.go.jp/shingikai/sankoshin/hoan_shohi/denryoku_anzen/denki_setsubi/022.html

3. イベント情報（国内）

◎：木質ペレット燃料、ストーブ、ボイラの関連イベント

■兵庫県立大学政策科学研究所シンポジウム第 3 回「地球環境に優しい街づくり-脱炭素社会にむけた都市設計-」

2025 年 2 月 2 日（日）

神戸国際会館 9 階大会場（兵庫県神戸市）/WEB

<https://ips-u-hyogo.jp/archives/852>

■兵庫県「地域再エネワークショップ in 但馬～再生可能エネルギーを知ろう、学ぼう～」

2025 年 2 月 3 日（月）

豊岡総合庁舎 301 会議室（兵庫県豊岡市）/Web（Webex）

<https://web.pref.hyogo.lg.jp/nk19/press/20250110-2.html>

■岩手大学次世代アグリイノベーション研究センター（AIG）シンポジウム「岩手県での持続可能な再生可能エネルギー供給実現に向けて」

2025 年 2 月 3 日（月）

岩手大学教育学部 1 号館北桐ホール（岩手県盛岡市）

<https://www.iwate-u.ac.jp/info/event/2024/12/006550.html>

■森林フォーラム実行委員会「令和 6 年度『森林フォーラム』」
2025 年 2 月 6 日（木）

塩尻市文化会館レザンホール中ホール（長野県塩尻市）/オンライン

<https://www.pref.nagano.lg.jp/ringyo/happyou/20250123press.html>

■（公財）自然エネルギー財団「ウェビナー・デンマーク編」
「気候・経済・社会の安全保障を強化するグリーンエネルギー転換の現在」

2025 年 2 月 7 日（金）

ウェビナー（Zoom）

<https://www.renewable-ei.org/activities/events/20250207.php>

■長野県小布施町「木質資源の活用からみる脱炭素視察会」

2025 年 2 月 13 日（木）

小布施町役場第一会議室他、小布施町内

<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSfnHXsC5iRicpxdD5uDqTyEgGbkj1uyEXcuZrEtVNBbTgVA/viewform>

■イオン SATOYAMA フォーラム事務局「第 2 回イオン SATOYAMA フォーラム みんなで考えつくる～新しい SATOYAMA (里山)～」

2025 年 2 月 18 日 (火)

国連大学 3 階ウ・タント国際会議場 (東京都渋谷区)

<https://www.aeonkankyozaidan.or.jp/satoyamaforum/2025/>

■RX Japan (株)「SMART ENERGY WEEK」【春展】

2025 年 2 月 19 日 (水)～21 日 (金)

東京ビッグサイト東・南ホール (東京都江東区)

<https://www.wsew.jp/spring/ja-jp.html>

◎RX Japan (株)「BIOMASS EXPO バイオマス展」

2025 年 2 月 19 日 (水)～21 日 (金)

東京ビッグサイト東・南ホール (東京都江東区)

<https://www.wsew.jp/hub/ja-jp/about/bm.html>

■(公財)自然エネルギー財団 国際シンポジウム「REvision2025 脱炭素への大競争と自然エネルギー」

2025 年 3 月 5 日 (水)

イイノホール (東京都千代田区)

<https://www.renewable-ei.org/activities/events/20250305.php>

■(一財)環境イノベーション情報機構「～気候変動の課題解決に取り組む～学生ワークショップ 2025」

2025 年 3 月 10 日 (月)～3 月 14 日 (金)

東京・オリンピックセンター (東京都渋谷区)

<https://www.eic.or.jp/eic/workshop/2025/001/>

◎CMT「BIO FUELS & CARBON」

2025 年 5 月 20 日 (火)～21 日 (水)

東京マリオットホテル (東京都)

<https://www.cmtevents.com/aboutevent.aspx?ev=250501>

◎CMT「BIOMASS PELLETS TRADE & POWER」

2025 年 5 月 21 日 (水)～23 日 (金)

東京マリオットホテル (東京都)

<https://www.cmtevents.com/aboutevent.aspx?ev=250501>

◎CMT「2nd Annual BIONNOVASIA」

2025 年 5 月 20 日 (火)～23 日 (金)

東京マリオットホテル (東京都)

<https://www.cmtevents.com/aboutevent.aspx?ev=250501>

◎日報ビジネス(株)「2025 NEW 環境展/2025 地球温暖化防止展」

2025 年 5 月 28 日 (水)～30 日 (金)

<https://www.n-expo.jp/>

■九州イノベーション WEEK 実行委員会「九州 GX 脱炭素推進 EXPO」

2025 年 6 月 4 日 (水)～5 日 (木)

マリンメッセ福岡 A 館 (福岡県福岡市)

<https://kfb-shien.com>

■ジャパン・エネルギー・サミット 2025

2025 年 6 月 18 日 (水)～20 日 (金)

東京ビッグサイト (東京都江東区)

<https://www.japanenergyevent.com/>

■RX Japan (株) 第 5 回 脱炭素経営 EXPO 【秋展】

2025 年 9 月 17 日(水)～19 日(金)

幕張メッセ (千葉県千葉市)

<https://www.decarbonization-expo.jp/hub/ja-jp/about/dcm.html>

■(一社)日本木工機械工業会「日本木工機械展 2025」

2025 年 10 月 2 日 (木)～4 日 (土)

ポートメッセなごや 第 1 展示館、屋外 (愛知県名古屋市)

<https://mokkiten.com/>

■RX Japan (株) 第 5 回 脱炭素経営 EXPO 【関西展】

2025 年 11 月 19 日 (水)～21 日 (金)

インテックス大阪 (大阪府大阪市)

<https://www.decarbonization-expo.jp/hub/ja-jp/about/dcm.html>

4. イベント情報 (海外)

■Bio360 2025

2025年2月5日(水)～6日(木)

ナント(フランス)

<https://www.bio360expo.com/lang/en>

■Exploring Europe's Bioenergy Landscape

2025年2月11日(火)

Zoom(オンライン)

<https://eu.jotform.com/form/250141887660358>

◎8th Annual Biomass Trade & Power Europe 2025

2025年2月25日(火)～26日(水)

コペンハーゲン(デンマーク)

<https://cmtevents.com/main.aspx?ev=250203&pu=306210>

◎World Sustainable Energy Days 2025

2025年3月5日(水)～7日(金)

ヴェルス(オーストリア)

<https://www.wsed.at/>

◎European Pellet Conference 2025

2025年3月5日(水)

ヴェルス(オーストリア)

<https://www.wsed.at/european-pellet-conference-2025>

◎International Biomass Conference & Expo

2025年3月18日(火)～20日(木)

ジョージア州アトランタ(USA)

<https://2025-ibce.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pagelid=Home>

■Argus Biomass Conference

2025年4月1日(火)～3日(木)

ロンドン(UK)

<https://www.argusmedia.com/en/events/conferences/biomass-conference>

■ICCI 2025 - International Energy and Environment Fair and Conference

2025年4月24日(木)～26日(土)

イスタンブール(トルコ)

<https://icci.com.tr/en/icci-home/>

◎WORLD OF FIREPLACES

2025年4月28日(月)～30日(水)

ライプツィヒ(ドイツ)

<https://www.world-of-fireplaces.de/home/>

■Bioenergy Dubai 2025 - International Conference & Exhibition on Bioenergy & Sugar

2025年5月5日(月)～5月7日(水)

ドバイ(アラブ首長国連邦)

<https://sugar-bioenergy.com/>

■EXPO BIOMASA

2025年5月6日(火)～8日(木)

バリャドリード(スペイン)

<https://www.expobiomasa.com/en/>

■LIGNA

2025年5月26日(月)～30日(金)

ハノーファー(ドイツ)

<https://www.ligna.de/en/>

■Biofuel Expo 2025 - International Exhibition & Conference on Biofuel & Green Hydrogen

2025年6月4日(水)～6日(金)

グレートノーイダ(インド)

<https://www.biofuelexpo.com/>

■Elmia Wood

2025年6月5日(木)～7日(土)

ヨンショーピング(スウェーデン)

<https://www.elmia.se/en/wood/>

■Sustainable Fuels Summit: Sustainable Aviation Fuel & Renewable Diesel

2025年6月9日(月)～11日(水)

ネブラスカ州オマハ(USA)

https://few.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pagelid=Sustainable_Fuels_Summit_SAF_Renewable_Diesel_Biodiesel

■Carbon Capture & Storage Summit

2025年6月9日(月)～11日(水)

ネブラスカ州オマハ(USA)

http://fuelethanolworkshop.com/ema/DisplayPage.aspx?pagelid=Carbon_Capture_Storage_Summit

■2025 International Fuel Ethanol Workshop & Expo

2025年6月9日(月)～11日(水)

ネブラスカ州オマハ(USA)

<https://2025-few.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pagelid=Home>

■EUBCE 2025 - 33rd European Biomass Conference and Exhibition

2025年6月9日(月)～12日(木)

バレンシア(スペイン)

<https://www.eubce.com/about-the-conference/#>

■ENVEX2025-international Exhibition on Environmental Technology and Green Energy

2025年6月11日(水)～13日(金)

ソウル(韓国)

<https://www.envex.or.kr/eng/main/index.asp>

◎10th Pellet Forum & 3rd European Pellet Forum

2025年6月12日(木)～13日(金)

グディニャ(ポーランド)

<https://magazynbiomasa.pl/pellet-forum/>

■Future of Biogas West

2025年10月6日(月)～8日(水)

アルバータ州カルガリー(カナダ)

<https://biogasassociation.ca/vob2025west/>

■All Energy Australia 2025

2025年10月29日(水)～30日(木)

メルボルン(オーストラリア)

<https://www.all-energy.com.au/en-gb.html>

■HOLZ-HANDWERK 2026

2026年3月24日(火)～27日(金)

ニュルンベルク(ドイツ)

<https://www.holz-handwerk.de/en>

5. 公募等情報(締切順)

■環境省「脱炭素先行地域(第6回)募集について」

応募期間 2025年2月3日(月)～2月6日(木)

https://www.env.go.jp/press/press_04127.html

■(一財)環境イノベーション情報機構「～気候変動の課題解決に取り組む～学生ワークショップ2025

への参加者募集」

申込締切 ～2025年2月5日(水)

<https://www.eic.or.jp/eic/workshop/2025/001/>

■(公社)日本ナショナル・トラスト協会「第20期ナショナル・トラスト活動助成」

応募期間 2024年4月1日(月)～2025年3月31日(月)

<http://www.ntrust.or.jp/subsidy/index.html>

■福島県福島市「燃油を使用しないハウス暖房設備等の導入費用を助成します」

<https://www.city.fukushima.fukushima.jp/nougyou-seisan/shigoto/noringyo/norinshinko/shisetuengei060401.html>

※2025年3月31日までに事業を完了すること

■長野県松本市「松本市再生可能エネルギー導入支援事業補助金」

<https://www.city.matsumoto.nagano.jp/soshiki/51/4407.html>

■千葉県南房総市「南房総市施設園芸木質バイオマス暖房機等設置費等補助金」

<https://www.city.minamiboso.chiba.jp/0000007149.html>

■高知県「高知県林業・木材産業改善資金」

<https://www.pref.kochi.lg.jp/doc/2024041500181/>

■北海道「林業・木材産業改善資金」

https://www.pref.hokkaido.lg.jp/sr/rrm/05_rinkin/k002.html

■滋賀県甲賀市「再生可能エネルギー地域導入促進事業補助金」

<https://www.city.koka.lg.jp/6567.htm>

■滋賀県甲賀市「甲賀市公共の施設等再生可能エネルギー導入事業補助金」

<https://www.city.koka.lg.jp/7406.htm>

■南砺市「木質ペレット燃料購入者支援補助金」

<https://www.city.nanto.toyama.jp/cms-sypher/www/service/detail.jsp?id=20558>

■富山県「脱炭素社会推進資金（再生可能エネルギー利用促進枠）」

<https://www.pref.toyama.jp/1300/sangyou/shoukoukensetsu/shoukougyou/kj00012293/kj00012293-008-01.html>

■富山県「富山県中小企業脱炭素社会推進資金環境施設整備枠融資制度」

<https://www.pref.toyama.jp/1705/kurashi/kankyoushizen/kankyou/kj00006264.html>

■千葉縣市原市「企業の設備投資に対する奨励制度」

<https://www.city.ichihara.chiba.jp/article?articleId=60237827ece4651c88c1880a>

■NEDO「2025年度『木質バイオマス燃料等の安定的・効率的な供給・利用システム構築支援事業』に係る公募について」【予告】

2025年3月上旬から1カ月間公募予定

https://www.nedo.go.jp/koubo/FF1_100417.html